

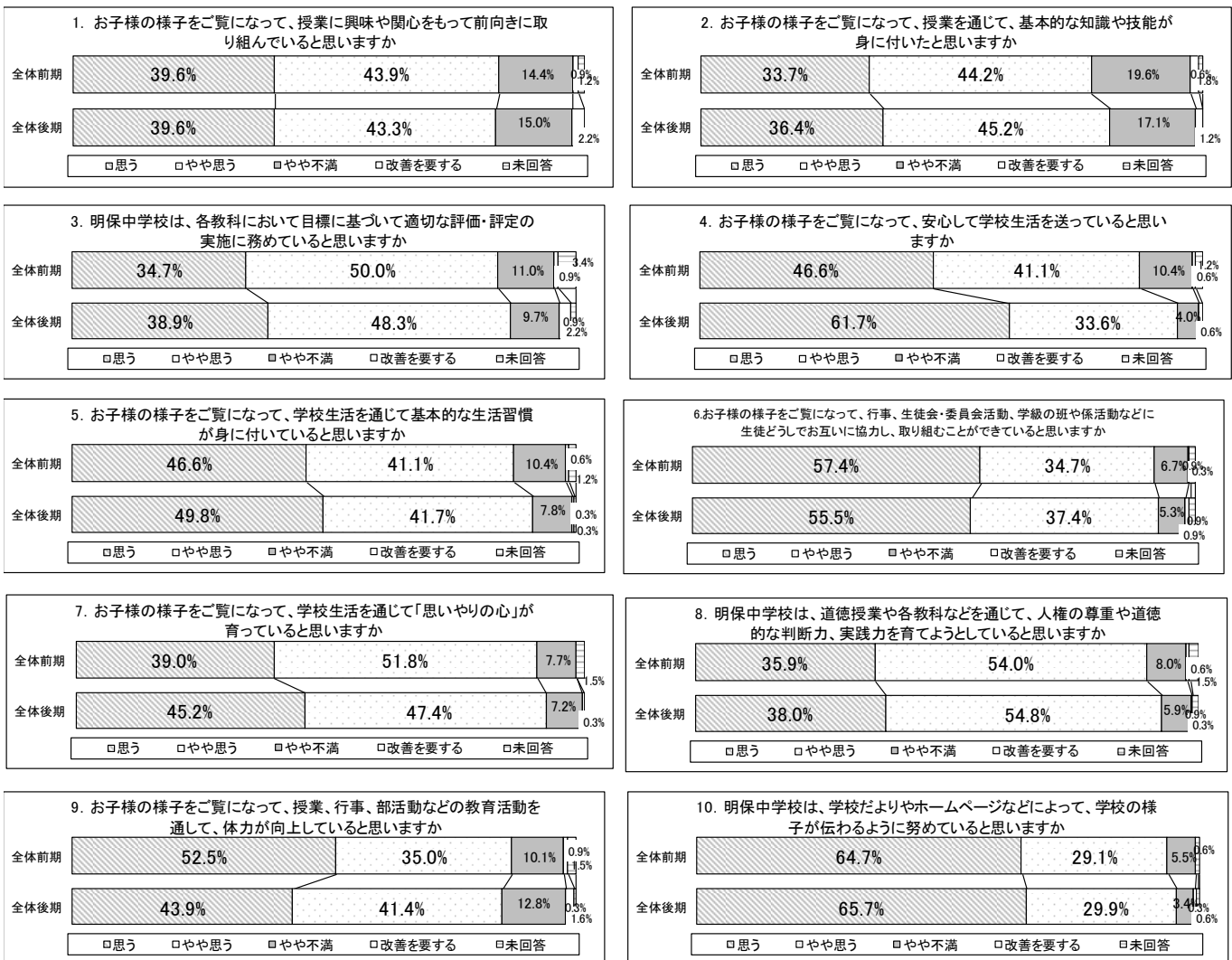
## 後期保護者アンケートの分析を行いました

主幹教諭

2学期12月に実施いたしました後期保護者アンケート（学校評価アンケート）の集計結果をお知らせいたします。アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。

この数年、全体的な傾向は大きく変わりません。ほとんどの項目で「思う」「やや思う」の項目を合わせた肯定的な回答が80%を超えており、中には90%を超えている項目もあります。また、前期と比較した時に、8つの項目において、前期よりも後期の肯定的な意見が上回っています。この結果は、明保中の教育活動が保護者の皆様にご理解とご協力をいただいている証拠だと考えています。その反面で肯定的な意見が前期よりも下がっている項目もあります。今回の後期保護者アンケートを通じて、今年度の明保中学校の教育活動における成果と課題について分析をいたします。

### 令和元年度 保護者アンケート 全体集計



### 【今年度の教育活動の成果】

肯定的な回答の多い項目は、「思う」「やや思う」の2つを合わせた数字です

- (1) 10. 明保中学校は、学校だよりやホームページなどによって、学校の様子が伝わるように努めていると思いますか …95.6% (昨年度 95.1%)
- (2) 4. お子様様子をご覧になって、安心して学校生活を送っていると思いますか …95.3% (昨年度 92.6%)

安心して学校生活を送ることができることは、生徒が落ち着いて学校生活や学習活動に集中するためにとっても必要なことです。中学校生活の3年間はいわゆる「思春期」に入ります。生徒にとって、「保護者」との関係が中心であったものが、「友達」との関係が中心になっていく移行期になるのが、この「思春期」とも言えるでしょう。その中で、生徒同士がさまざまな葛藤や摩擦を抱えることもありますが、それは大きな成長のチャンスと言えます。

**(3) 6. お子様の様子をご覧になって、行事、生徒会・委員会活動、学級の班や係活動などに生徒どうしで互いに協力し、取り組むことができていると思いますか …92.9%** (昨年度 94.6%)

学校では、「集団」を育成するために、意図的計画的に教育課程を構成しています。心身をバランスよく成長を育むために、学習面だけではなく、学級や学年、学校で行事を計画し、集団の中で個々の生徒の「自立」を目指しています。その反面で、「個」の面においても、一人ひとりの生徒が安心して生活し、葛藤や摩擦も起こる中で、個々の生徒の気持ちを受け止め、支えることも同時に必要です。明保中学校では、毎学期ごとに「ふれあい面談」を実施しています。アンケートを行い、6校時の授業を行わずに、担任をはじめとした教員と短時間ながら面談を行うことで、生徒の気持ちに寄り添い、励ますことで、生徒一人ひとりがさまざまな場面で活躍できるように、この面談の時間を設けています。

**(4) 8. 明保中学校は、道徳授業や各教科などを通じて、人権の尊重や道徳的な判断力、実践力を育てようとしていると思いますか …92.8%** (昨年度 91.4%)

**(5) 7. お子様の様子をご覧になって、学校生活を通じて「思いやりの心」が育っていると思いますか …92.6%** (昨年度 92.3%)

また、再来年度から新学習指導要領の完全実施が始まりますが、今年度から「特別の教科道徳」を実施しています。今までのように道徳の教科書を読んで感想を書くだけではなく、話し合い活動や体験活動などさまざまな学習の場面を工夫し、生徒一人ひとりの内面に迫り、その成果を担当が所見で学期ごとの成果を評価として記述します。道徳授業の工夫のために、各学年で話し合いを続けているところです。来年度は道徳の授業を充実させるために、各学年で内容ごとに道徳の授業を行う教員を学級で入れ替える「ローテーション道徳」を行う計画です。通知表は是非、各教科の評定だけではなく、道徳の所見にも目を向けていただき、ご家庭でお子様と話し合いの機会をとっていただけると幸いです。

**(6) 3. 明保中学校は、各教科において目標に基づいて適切な評価・評定の実施に務めていると思いますか…12.8%** (昨年度 18.4%) (ここは「やや不満」、「改善を要する」の2つを合わせた数字です)

この項目は例年、肯定的な回答が少なく、否定的な回答が多い項目です。今年度に関しては前期から大きく否定的な回答が少なくなりました。しかし、評価・評定は、生徒の学習状況を見取るための一つの大切な指標になるので、今後とも適切な評価・評定にしていく必要があります。再来年度から新学習指導要領が完全実施され、今までの4つの観点(国語は5つ)から、全教科共通の3つの観点に変わります。具体的には「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力」の3つの観点で評価を出していく形になります。来年度、新学習指導要領の完全実施に向けて、評価・評定の在り方も研修を行う予定で計画を立てています。

**【来年度への課題】** (「やや不満」、「改善を要する」の2つを合わせた数字です)

**(1) 1. お子様の様子をご覧になって、授業に興味や関心をもって前向きに取り組んでいると思いますか …17.2%** (昨年度 15.1%)

**(2) 2. お子様の様子をご覧になって、授業を通じて、基本的な知識や技能が身に付いたと思いますか …18.3%** (昨年度 16.1%)

これらの項目も肯定的な回答が相対的に少ない項目になりますが、(2)の項目については前期と比較して3.7%肯定的な意見が増えています。今年度明保中学校は、西東京市の研究奨励事業の一環として、「主体的に学ぶ生徒の育成～ICT機器の活用～」というテーマで研究を行いました。全校生徒にアンケートで「自分自身に主体的に学ぶ力があるか」という質問をしたところ、「ある」「少しある」と答えた生徒は、4月と11月を比較して、3%ほどの生徒が増えた程度にとどまりました。これは全校生徒の11人程度です。私たちの授業を改善していく上で、ICT機器を使うことが目的になるのではなく、ICT機器を活用していかに生徒の学力を伸ばしていくかを改善していかなければなりません。新学習指導要領では、今までよりもより一層「主体的で対話的な深い学び」による授業が求められます。生徒が主体的に学習に向かうように今後も授業改善に取り組んでまいります。

**(3) 9. お子様の様子をご覧になって、授業、行事、部活動などの教育活動を通して、体力が向上していると思いますか…14.9%** (昨年度 11.2%)

この項目は、アンケートを回答する上で、なかなか実感が湧きにくい項目ではないかと思えます。昨年6月に行ったスポーツテストの結果を考察すると、本校の女子、特に2年生は走る能力はとても高いレベルです。男子においても東京都の中でいうと、平均のレベルです。昨年度の結果を受けて「投げる」項目が低かったため、昼休みに「ヴォータックスフットボール」を貸し出しました。また、西東京市では昨年度から「部活動に関するガイドライン」が策定され、全体的に部活動の活動時間が制限されて減っている現状です。来年度、生徒の体力向上に向けての取り組みを検討し、体力向上に努めていきたいと考えています。



最後になりましたが、お忙しい中アンケートにご協力いただきましてありがとうございます。本アンケート結果を受け止め、明保中学校の教育活動をよりよいものとするため、今後とも改善をすすめてまいります。